

## 白鳥法子 議員



### 男女共同参画の本気度を問う

**問** 4月に始まった男女共同参画計画の中に「審議会等における積極的な女性委員の登用を進める」とあります。新設の審議会等や委員の変更で女性委員の割合はどうなりましたか？

**答** また、担当課の考え方や計画所管課（政策企画課）からの働きかけは？

令和7年度に女性割合を30%にするという目標に向けた具体的な取り組みは？

### 今後は具体的に取組む

**答** 新設は1件で4.8%（21名中1名）。委員の変更は2件で40.0%と11.1%。

団体からの推薦や充て職によるため、結果的に女性が増えなかった。性別にとらわれず選定した結果、男性が多くなった。

計画策定後、各課に計画を配り内容を認識した上で積極的な女性の登用に取り組むよう働きかけました。

今後は、学識経験者は女性がいなかったか確認し、関係団体に積極的な女性の推薦を働きかけた。職員の意識改革をしつつ各課への指導を行います。

### ポジティブアクションを！

**要望** 女性登用率47%を超えている宇部市など、進んでいる自治体の取り組みを参考にされては？

現在さまざまな場面で性別のみならず多様性が求められています。町の本気度をあらゆる事業・施策に織り込み、今後のまちづくりにも多様な人々を巻き込み取り組んでいただきたい。

## 竹田茂伸 議員



### 地場産業活性化協議会の設置を

**問** 全国の未開拓市場への販路拡大の課題に対し、特産品の開発、周知宣伝、販売方法をJA、JF、郵便局、銀行、商工会、観光協会、などの異種事業者が連携し、お互いに協力できるシステムを構築するために、デジタル化に合わせた町主体の地場産業活性化協議会を設立してはいかがでしょうか。

### 必要な時に設立を考えたい

**答** 普段から多業種で横断的に協議を行う場がないのが実情です。

現在、経済産業省が本町での「異業種連携による地域活性化モデル」を検証中です。

その結果を施策に活かす際、今後必要性が生じたとき、協議会等の設置を考えたい。

### 地域格差のない住み良い町とは？

**問** 20年後には周防大島町の人口は約8千人になると予想されています。一人も取り残すことなく定住につなげていくためには、行政と町民による地域の将来像、特に病院再編計画の見直しと公共交通の青写真の作成が急務です。

本町のどこに住んでも地域格差のない、住み良い町とはどのように考えられていますか。

### 誰もが安心して暮らせる町

**答** 町民の皆様が、「心と健康を保ち自然とともに生きがいや、住みやすさを実感でき、保健、医療、福祉や生活環境が充実し、誰もが安心して暮らせる町」と考えています。

どこにいても同じ行政サービスが受けられ、住民の利便性を向上させていくよう努めてまいります。



地域格差のない町づくりを!!

ポジティブアクションのシンボルマーク

「きらら」



### ※ポジティブアクションとは

参画機会の格差改善のため、男女いずれか一方に参画の機会を積極的に提供する「積極的改善措置」のことです。